

ワニたちは、どろの中にねそべって、のんびりすごしています。友人たちは、バールベック寺院の中に巣を作っており、ピンクと白のハトが、それを見て、クークーと、なきかわしています。王子様。ぼくは、行かなくちゃなりません。あなたのことは、決してわすれません。来年の春、ぼくは、あなたがあげてしまったほう石二つの代わりに、美しいほう石を二つ持って帰ってきます。ルビーは、赤いバラよりも赤く、サファイアは、大海のように青いものになるでしょう」「下のほうに広場がある」と、幸福の王子は言いました。

「そこに、小さなマッチ売りの少女がいる。マッチをみぞに落としてしまい、全部だめになってしまった。お金を持って帰れなかったら、お父さんが女の子をぶつだろう。だから女の子は泣いている。あの子は、くつも、くつ下も、はいていないし、何も頭にかぶって

いない。わたくしの残っている目を取り出して、あの子にやってほしい。そうすれば、お父さんから、ぶたれないだろう」「もう一ばん、あなたのところにとまりましょう」ツバメは言いました。「でも、あなたの目を取り出すなんて、できません。そんなことをしたら、あなたは、何も見えなくなってしまう」「ツバメさん、ツバメさん、小さなツバメさん」と、王子は言いました。「わたくしが命じたとおりに、しておくれ」そこでツバメは、王子のもうかた方の目を取り出して、下へ飛んでいきました。ツバメはマッチ売り